

プロジェクト つくり育てる漁業の推進

目標

・アイナメ種苗生産数	R4 : 50,000尾	→	R10 : 80,000尾
・マツカワ種苗生産数	R4 : 14,000尾	→	R10 : 100,000尾
・ミネフジツボ種苗生産数	R4 : 2,400個	→	R10 : 16,000個
・海藻類の生産量	R4 : 1,673t	→	R10 : 3,000t

挑戦する内容

- ・地先資源増大に寄与すること等が期待される栽培対象魚種の安定種苗生産
- ・増養殖実証試験
- ・サケの適期・適サイズ放流、回帰率向上に向けた種苗生産の検討、環境変化に応じた放流手法の検討

関係者の声
=対話

- ・地先資源を増やすため一層の種苗放流が必要（漁業者）
- ・漁業関係者の所得安定・向上を図るため、天然資源に頼らない漁業の推進が必要（漁業者）
- ・継続した増養殖技術の開発が必要（市町村）

役割分担

- ・漁業者 : 養殖実証試験の実施
- ・産技センター : 生産技術の指導、疾病対策、放流効果調査等
- ・種苗生産機関 : 安定した種苗生産技術の確立
- ・県 : 種苗生産機関への支援、養殖実証試験支援

変革後の姿

- ・地先資源増大による沿岸漁獲量の増加
- ・養殖生産の増加による漁家経営のリスク分散

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 地先資源増大に寄与すること等が期待される栽培対象魚種の安定種苗生産
 - ・アイナメ、マツカワの種苗量産技術の確立に向けた試験を実施
 - ・ミネフジツボの種苗生産技術の確立に向けた試験を実施
- 2 増養殖実証試験
 - ・魚類や海藻類の増養殖推進に向けた検討会を開催（2回）
 - ・マコブ海中林造成実証試験を実施（12か所）
 - ・アカモク、ワカメの養殖試験実施（2か所）、環境保存型の増養殖の推進（鯉ヶ沢水産事務所）
- 3 サケの適期・適サイズ放流、回帰率向上に向けた種苗生産の検討、環境変化に応じた放流手法の検討
 - ・新たな飼育方法（半閉鎖循環式）による飼育期間短縮に向けた試験を実施
 - ・回帰率向上に向け、親魚として野生魚を活用した比較実証試験を実施



アカモク種苗の沖出し

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・増養殖推進検討会で意見交換（2回）
- ・マコブ海中林造成実施地区で漁業者と情報交換（12か所）